

論 題 新規就農者向けIターン住宅の事例と可能性について
-福井県池田町を事例として-

学籍番号 20719024

氏名 鈴木 絵梨子

指導者 薬袋 奈美子 専任講師

1. 研究目的

全国の農村で新規就農者の獲得が課題の一つであり、Iターン住宅の可能性を探る自治体も多い。移住者がスムーズに農業に取り組むためのIターン住宅のあり方を、福井県池田町で農業を営む移住者の暮らし方を例に現状を明らかにする。

2. 研究方法

平成4年積雪の多い中山間地域、福井県池田町はIターン住宅「ふるさと十字軍の館」(以下十字軍住宅と略)の募集を行った。過疎高齢化と農業の担い手不足の問題解決の為、家族の1名以上が農業に専従する条件で、Iターン住宅を年11万円で貸し、20年住み続けるとその住宅を無償譲渡する全国でも例のない取り組みである。住宅は10棟で3~5LDK、床面積約150㎡の庭付きである。

本稿では十字軍住宅の主に農業と関連した住居の使い方を明らかにすることを目的とし、調査の了解を得られた6世帯にヒアリング等を行った。

移住家族概要は表1である。移住当初から現在までFを除き、稲作、畜産、養鶏や森林組合等、複合的に農業や副業を行い収入を確保している。

表1:移住者概要

	A家	B家	C家	D家	E家	F家
当初の家族数/子供(歳)	4/10・8	3/1・妊娠中	5/12・11・3	5/9・7・0	4/6・0	4/5・2
現在の家族数	5	3(週末5)	2	4	3	3
仕事	稲作	0.5ha Shasun3時点	3ha	4ha	11ha	
	野菜	0.1ha 家庭菜園	作、メロン等		0.1ha 家庭菜園	
	畜産	繁殖牛(親子22頭)	山羊:チズ・ヨグ(36頭)			肉牛(160頭)
	他					
	農業以外	○		シイタケ:3a	養鶏:卵	

3. 利用農地の位置

移住1年目は畜産に取り組むFを除き、町から0.1ha程度の農地が貸し与えられた。2年目以降、移住者各々が徐々に農地を拡大させ現在は農林公社*1と個人から借りた農地で農業を行っている。高齢の為農業ができないが先祖代々の農地を耕作放棄地にしたい農家と、農地拡大をしたい移住者の希望が合致し、更に互いの信頼関係ができたことで農地の貸し借りが行われている。

農地について「農地が遠い。農地が家の周りにあればよい。」(B, C, D)「借りている田んぼだと気を使うので土地は欲しいが、地主も売らないし私達も急にまとまったお金を出せない。」(B)という。農地が遠く、場所が分散し土手が多いため一枚一枚の面積が小さい。居住地周辺に集約させ効率的に農業を行うことが難しい状況である。(図1)

またBは「移住初期はまだ農地が狭く、庭や近隣の畑で農作業をすることが多かった。自宅近くで子供の面倒を見ながら作業ができるのは良かった。」と答えており子育て面から見ても農地と住

居の距離が近いことはメリットになる。

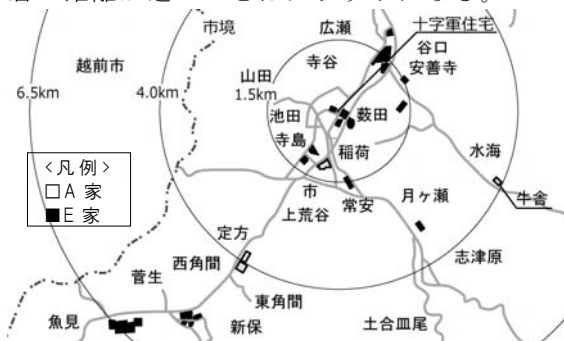


図1:A家とE家の農地の場所

4. 農業に関連した住空間の使い方(図2)

(1)作業:現在事務作業以外を住居内で行っている家はないが、Cは「移住初期は作業所がなく、収穫したシイタケを食卓で袋詰していたので不便だった。」と答えており、農作業場所が用意できるまでは住居内で作業をしていた家もある。
(2)収納等:5軒中4軒が米等農作物の直販を行っている。無・減農薬、手作り等の付加価値や販路を移住者自身で確保することで利益を上げている。直販を行う家は発送時の箱等備品を置く場所が必要であると答えている。

また作業着や長靴等を置く収納や作業空間がないという意見が多い。土間空間が欲しかった為、「トタンで囲い物置をつくる。」(A, D)や「改築しチーズ製造工房をつくる。」(B)等移住者自らが工夫し作業所や収納の確保を行っている家もあるが、農業者にとって使いにくい住居であることが分かった。(表2)移住者も十字軍住宅が「都会的な家。」(B)「農業を目的とした住居ではない。」(D)「昔の古い農家の家が理想。」(C, E)と感じている。

一方Fは仕事の拠点の牛舎に事務所や農機具を置く場所が十分ある為、住居に対する不満はない。

表2:住要望-必要な空間-

農業関連	収納	収穫物置場	作業場所
農業外	居室 ・客間 ・吹抜を無くし部屋にする 設備 ・温水器の容量(現状では足りない)	・倉庫 ・広い玄関や勝手口 (靴、作業着を置く) ・屋根つきの半屋外空間 (作業着等を干す)	・収穫した野菜を置く場所 ・土蔵等一定温度を保てる場所 (漬物、味噌を置く) ・大根を洗う、干す等ができる場所 ・作業場 ・屋根のある下流し

5. 周辺空間の使い方(図2)

敷地内の車庫では足りず、各々別に倉庫を設けている。増えた農業機械の収納場所や、直販を行っている家では米の保管庫を設置する場所が必要である。(表3)車は夏、屋外に置いているが、冬は積雪のため車庫にしまう家が多い。子供が免許を取れる年齢になると、車が増え新たな車庫が必

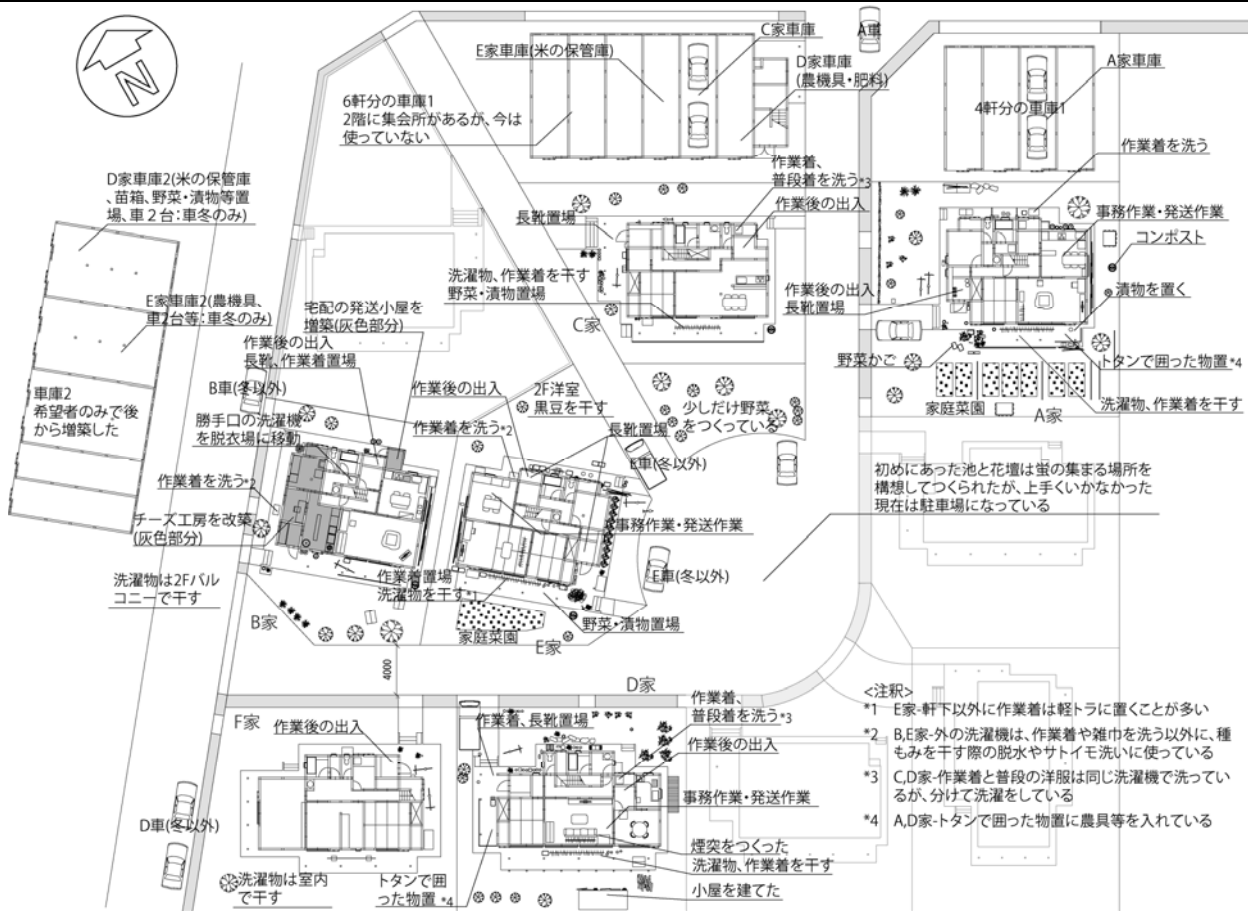


図2:十字軍住宅配置図・住まい方

要になるが、場所がなく不便を感じる家もある。また敷地内に当初池や花壇があったが池は危険で水質が悪化しやすく、花壇は農業で生活を確立させていかねばならない中で育てる余裕がないなど管理負担が大きく不要であった為なくなった。

表3:車・農機具等の置き場所

	A家	B家	C家	D家	E家	F家
車	車庫1、玄関の前、水路前	車庫(冬以外は道路)	車庫1	車庫2(冬以外は道路、鶏舎、家の前)	車庫2(冬以外は家の前)	車庫
農機具、米の保管庫、肥料等	牛舎	ビニールハウス、近くの倉庫、車庫(冬以外)	格納庫、アレーブ小屋	車庫1、車庫2 共同所有の倉庫	車庫1、車庫2(冬以外)、農協の低温冷蔵庫、共同所有の倉庫×2	牛舎

6. 地域との関わり

(1)農地を借りている集落: 借りている農地の集落活動は年1回の用水路の掃除等である。農地が分散している為、移住者は複数の集落の掃除に行く。全員が農業に関する集落労働は参加することが当たり前と考えているが、「同じ日に別の集落の掃除がかぶることがある。」(B)「自宅から遠い集落の会合に出ていなかったら、用水路の水の取り入れ時間を夜中に回されてしまった。」(C)等の苦労がある。

(2)十字軍住宅の移住者間: 数年間は車庫2階の集会所で会合を開いていた。また「移住初期は、移住者同士の子供の年齢が近かったので忙しい時はお互い子供を預け合っていた。」(B)と子供を通じ移住者間の関わりがあったが、現在全員が集まるのは共同車庫の雪下ろしのみである。農作業が忙しく「会えば挨拶程度はするが、皆やっていることがバラバラで集まる機会がない。」(A)という。

(3)十字軍住宅の所属集落: ①集落労働②行事・集

会がある。①は祭り前の草刈り等掃除が主で、出不足金を払わなければならないこともあり全員が移住初期から現在まで参加している。②は移住初期、全員が参加していたが現在の関わり方はそれぞれで、行事だけではなく「農業をすることで地域との関わりを持つことができた。」(A, B)と感じる人もいる。

7. まとめ

多くの資金が必要な新規就農にあたり、住居の心配がないのはメリットである。しかし十字軍住宅は農業者の暮らしの場としては幾つかの課題があることが分かった。

各自治体の行う移住政策は移住者が地域になじまない、移住者の雇用がない等の課題を抱える。十字軍住宅の事例では農業従事者の移住である為、移住者が農業を行うことで地域と関係作りを行い、複合的な作物の生産や販路開拓などに取り組み、地域の若手の担い手農家として精力的に営農を行っている点が魅力である。

農業者にとって、住と農は密接に関わるため、今後農業従事者向けIターン住宅計画の際はそれらを考慮して計画を行うことで、移住者がスムーズに生活ができるようになるのではないかと考える。

<注釈>

*1: 効率的で生産性の高い近代農業を確立するため、農林業の受委託による農地の保全、担い手育成、特産物開発、環境保全型農業の実現等を行っている。

<参考文献>

- ・池田町役場農林課 池田町の農林業 福井県今立郡池田町 2003.3
- ・川崎雅章 農村への移住志向と農村定住に関する研究 日本建築学会大会学術講演梗概集 1994.9
- ・垂水亜紀他 徳島県山形町における定住促進政策の展開と成果 林業経済研究 vol. 46 No. 1 p57-62 2000.3
- ・佐久間康富他 居住実態による空き家所有者と利用者の意識の相違に関する研究: 空き家の管理・利活用に関する研究その2 日本建築学会大会学術講演梗概集 2008.9